

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(技術・工業・情報)／菊地 章

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

①授業の中での教科教育と教科専門の融合

コアカリキュラムの中で教科教育と教科専門の融合を意識させ、学生に教員として意識を確立させる。

②教育実践を意識させた授業運営

コアカリキュラム以外の授業の中で実習形態を取り入れ、学校での実践を意識させた授業を展開する。

2. 点検・評価

①授業の中での教科教育と教科専門の融合

コアカリキュラムの中で教科教育と教科専門の融合を意識させ、学生に教員として意識を確立させた。特に、実践基礎教育Ⅲでは、小学校ならびに中学校での情報教育に関して、学習指導案作成を行うとともに、情報専門内容の基礎知識が小学校や中学校での授業の中でどのように活かせるかについて意識させながら授業を運営した。

②教育実践を意識させた授業運営

コアカリキュラム以外の授業の中で実習形態を取り入れ、学校での実践を意識させた授業を展開した。特に、制御情報処理やマルチメディアとシミュレーションでは積極的に発表させ、専門内容と教科教育内容の融合を進めた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

○学部ならびに大学院(修士)の授業において、実習を多く取り入れて授業内容の定着を図る。

○留学生受入を行い、大学院受験に繋がるよう指導する。

○連合大学院学生を指導し、国際学会発表ができるよう、研究内容を深化させる。また、学会に論文を投稿させる。

2. 点検・評価

- 学部ならびに大学院(修士)の授業において、実習を多く取り入れて授業内容の定着を図った。
- 研究生として留学生を受け入れ、大学院修士課程に進学させた。
- 連合大学院学生を指導し、国際学会発表させた。また、指導している2名の連合大学院学生に国内の査読有論文各々1編ずつを投稿・掲載させた。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- 学生の研究指導を徹底し、学会発表に結びつける。
- 自己の研究を発展させ、学術論文としての成果を出す。

2. 点検・評価

- 学生の研究指導を徹底し、学部生、大学院修士学生、大学院博士学生の全員に学会発表させた。
- 学生の論文を学会に投稿させ、掲載させた。
- 自己の研究を発展させ、学会発表するとともに、査読有学術論文として学会に投稿した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- 現職研修を本学で実施し、本学の知名度を高めることにより大学運営に貢献する。
- 地域連携センター所長として、大学と地域の連携に努める。

2. 点検・評価

- 中学校教員24名に対して現職研修(産業・情報技術等指導者養成研修)を本学で8月に実施し、本学の知名度を高めた。また、大学運営にも貢献した。
- 地域連携センター所長として、教育文化フォーラムを開催するなど、大学と地域の連携に努めた。また、地域連携センターの今後の方向性について共通認識を確立した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 技術ならびに情報に関わる教員研修を担当し, 全国の技術教員の能力向上に寄与する。
- 附属学校園における学生の教育実習に積極的に関与する。
- 学会研究会を開催し, 研究成果を社会に還元する。

2. 点検・評価

- 技術ならびに情報に関わる教員研修を担当し, 全国の技術教員の能力向上に寄与した。
- 附属学校園における学生の教育実習に積極的に関与した。
- 平成24年3月に日本産業技術教育学会情報分科会研究発表会を本学で開催し, 本学の知名度を上げるとともに, 研究成果を社会に還元した。
- 日本産業技術教育学会編集委員長を担当し, 当該学会の活性化を行うとともに, 社会への学会の知的資産の公開に努力した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

学内の授業担当(学部単独担当授業12科目, 学部共同担当科目6科目, 連合大学院の単独授業担当4科目), 現職研修, センター所長, 学会編集委員長等の多量の業務をこなしており, 本学に十分貢献していると思っている。